

南アフリカ為替週報

2021 年 12 月 9 日 | みずほ銀行欧州資金部

MIZUHO

＜過去 1 週間の動き＞

(12 月 2 日～12 月 8 日)

USD/ZAR: 15.6700～16.1500
ZAR/JPY: 7.99～7.26 (参照値)

過去 1 週間の南ア・ランド相場は、対ドルで、年初来安値圏における膠着から、じわりと反発。対円でも、方向感に乏しい膠着の先行から、小幅ながら水準を切り上げた。特段の材料に乏しく、膠着が支配的だった局面(2 日～7 日)で、唯一例外的に、明確に水準を切り下げたのは、3 日、米 11 月雇用統計発表後だった。注目された非農業部門雇用者数の伸びは市場予想の半分以上という失望を買う数字で、発表直後、ドルは全面安に。米連銀による金融引締めが先送りになるとの読みで、ランドを含む新興市場通貨全般にも押し上げ要因となった。しかし、労働参加率の上昇にもかかわらず、失業率が大幅に低下した組み合わせに、「米雇用回復は堅調」との受け止め方が広がり、程なくドルは(対円を除き)全面高に転じ、並行してランドは対円でも急落した。南ア固有の要因では、7 日発表された南ア第 3 四半期 GDP の低迷(季調済前期比で-1.5%)は、ランド安要因と読まれた感もあったが、ランド売りは小幅、かつ一時的にとどまった。その後 8 日にかけてランドが明確に水準を切り上げたのは、7 日の現地時間夕方、「補償なしの土地接收(EWC)」を可能にするための憲法改正案を、南ア議会が否決したことを好感した値動きと考えられた。同案は、与党アフリカ民族会議(ANC)の提出した法案ではあったものの、ラマポーザ大統領自身は、現状のままの EWC 強行には否定的と見られており、実際、ANC は 230 議席を有するにもかかわらず、同案への賛成票は 204 票にとどまった(少なくとも ANC の 26 議員は賛成票を投じなかった)。一連の経緯は、与党内部で、ラマポーザ大統領と対立関係にある革新的経済移行(RET)派閥の影響が限定的との読みで、ランドにとっては好材料と受け止めることができた。

＜過去 1 週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
12/7	6:00	総外貨準備高(USD)	11 月	57.62bn		57.52bn
	9:30	GDP(前年比)	Q3	+2.9%	+3.8%	+19.1%r
12/8	9:30	企業景況感指数	11 月	92.8		94.9
	11:00	小売売上高(前年比)	10 月	+1.8%	+1.9%	+2.1%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう 1 週間の見通し＞

(12 月 9 日～12 月 15 日)

USD/ZAR: 15.550～15.950
ZAR/JPY: 7.13～7.33

向こう 1 週間の南ア・ランド相場は、上値の重い膠着を予想。上述、EWC を巡るラマポーザ大統領の立ち位置は微妙。ANC 党首として、党の方針を真っ向から否定するわけにはいかないものの、EWC や南ア準備銀国営化などは、同大統領が党内基盤を固める前(2017 年)に、党首選のどさくさの中で強引に押し切れられ、党の方針として採用されたという経緯があった。同国の土地所有権が、アパルトヘイト以来の不公平を背負っており、一定の改革が必要なのは事実と思われるものの、今般、同案が成立しなかったことで、より予見可能で、公平な土地の再分配が実施されることが期待される。一方で、ラマポーザ政権が誕生してから、足掛け 4 年ちかくかけて、やっと EWC のための憲法改正棄却というのは、改革の進捗としてあまりにも遅過ぎる感が強い。汚職摘発/防止などに、明確な進捗は得られたものの、改革の目玉として期待された南ア電力公社(Eskom)改革(分社化)などは、未だ、確固たる成果を見せない。上述、第 3 四半期 GDP から、内需の低迷は明確で、そこに追い討ちを掛けるかのようなオミクロン株の確認/拡大は、同国経済の先行きに重い影を落とす。先般(11 月 18 日)、南ア準備銀は漸く利上げに踏み切ったが、上げた金利を引き下げる可能性は低いと見込むものの、追加利上げは当面先のこととなろう。

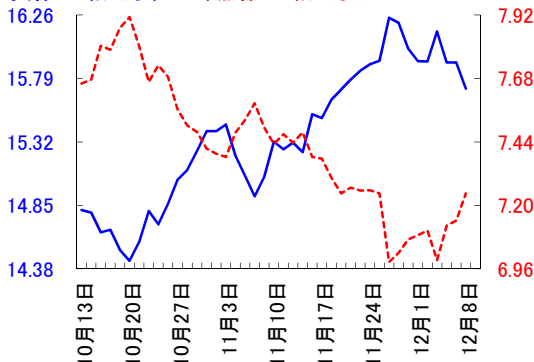
＜向こう 1 週間に発表予定の主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
12/9	9:00	経常収支(ZAR)	Q3		+259bn	+343bn
	9:30	鉱業生産(前年比)	10 月		-1.0%	-3.4%
	11:00	製造業生産(前年比)	10 月		-1.6%	+1.3%
12/15	8:00	CPI(前年比)	11 月			+5.0%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

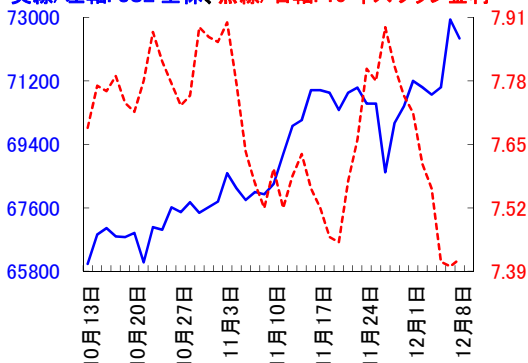
為替相場の推移(資料: ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移(資料: ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE 全株、点線/右軸: 10 年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レボ金利)		3.50%
長期金利(10 年スワップ)	12 月 8 日	7.415%
株価指数(JSE 全株)	12 月 8 日	72403.88
成長率(GDP/前年比)	Q3	+2.9%
経常収支(ZAR)	Q2	+343bn
失業率	Q3	34.9%
消費者物価(前年比)	10 月	+5.0%
小売売上高(前年比)	10 月	+1.8%
製造業生産(前年比)	9 月	+1.3%
鉱業生産(前年比)	9 月	-3.4%
貿易収支(ZAR)	10 月	+19.8bn
金価格(ロンドン 17:00)	12 月 8 日	1782.63

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。